

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 26 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/26 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	24.2 °C	105.8 kPaabs	0.00 vol%
		給水系：約 4.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.9 m ³ /h	44.7 °C	118 kPaabs	0.07 vol%
		給水系：約 3.0 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	52.6 °C	101.6 kPaabs	
		給水系：約 1.9 m ³ /h			

【1号機】・2/25 10:15 原子炉への注水量の変動が確認されたため、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.6m³/hから約 2.0m³/hに調整(給水系は約 4.5m³/hで継続中)。

【2号機】・2/23 12:21 ~ 14:48 温度指示値上昇に伴い流量を増加していた原子炉への注水について、増加操作前の流量(給水系：約 3.0m³/h、炉心スプレイ系：約 6.0m³/h)へ戻す操作を段階的に実施しており、2/22 の給水系からの注水量減少操作後、パラメータを監視していたところ、压力容器底部温度(底部ヘッド上部 135 °)が、他の压力容器温度上昇と異なる挙動を示したため、当該計器の調査を実施。

直流抵抗値測定の結果、断線しておらず、使用可能ではあるものの、前回測定時と比較し直流抵抗値が上昇していることが判明。今後、当該計器の健全性について評価を実施するとともに、対応を検討する。なお、モニタリングポストの値に有意な変動がないこと、2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングの結果、キセノン 135 が検出限界値未満であることから、再臨界していないと判断。

2/26 11:00 現在 压力容器下部(底部ヘッド上部)温度(135 °):約 44.7

・2/25 10:15 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.6m³/hから約 3.0m³/hに調整(炉心スプレイ系は約 6.0m³/hで継続中)。

【3号機】・2/23 原子炉格納容器ガス管理システムについて、設置工事が完了したことから、11:38 に試運転を開始し、14:10 に排気流量が 33m³/h で安定していることを確認後、調整運転を開始。

【4号機】【5号機】【6号機】・特に変化なし

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/26 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*	26.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	13.9 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	13.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	26 °C

*システム二次系エアフィンクーラー：停止中

【2号機】・1/19 11:50 ~ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

【3号機】・1/14 15:18 ~ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
1号機	1号機タービン建屋	→ 2号機タービン建屋	2/25 10:20～2/26 9:44 移送実施
2号機	2号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	2/23 14:04～2/26 13:51 移送実施
		→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	2/26 14:04～ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	2/25 14:09～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/26 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・ H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

【第二セシウム吸着装置(サリー)】

- ・ 2/25 8:30 頃 当社社員と協力企業作業員が、集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）1階にある第二セシウム吸着装置B系の配管溶接部より、水が漏れいしていることを発見。漏れいは1秒に1滴程度であり、漏れい量は約10リットルで、同建屋の堰内にとどまっておろ、建屋外への流出はない。水の漏れいを停止するために、10:44 第二セシウム吸着装置を停止し、漏れいした箇所の上流にある弁を閉めて、11:10 水の漏れいが停止したことを確認。水たまりの表面線量率を測定したところ、約4～5mSv/h（バックグラウンドは約2mSv/h）。漏れいした水を採取し、放射能濃度を分析したところ、ヨウ素 131: 検出限界値未満、セシウム 134 : $1.3 \times 10^5 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム 137 : $1.8 \times 10^5 \text{Bq/cm}^3$ 。
なお、当該装置の停止による滞留水の処理に影響はなく、バッファタンク内に淡水化処理した水は十分あることから、原子炉注水への影響はない。
その後、漏れいを確認した同装置B系の隔離操作を実施し、18:41 同装置A系を起動。18:44 流量が $20 \text{m}^3/\text{h}$ に到達し、安定して滞留水の処理を開始。
- ・ 2/26 8:35 同装置B系について当該配管およびフィルタの取替を実施するため、同装置A系を停止。
13:31 取替作業の完了に伴い、同装置A系およびB系を起動。13:50 定常流量の $33.6 \text{m}^3/\text{h}$ に到達し、安定して滞留水の処理を開始。

< 5. その他 >

- ・ H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5, 6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。
- ・ H24/1/31 6号機サブドレンから一時保管タンクへサブドレン水汲み上げ試験を実施。
- ・ H24/2/23～ 6号機サブドレンから一時保管タンクを経由し、仮設タンクへサブドレン水汲み上げ試験を実施中。

以上